

第7回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

- ・日時 平成27年11月10日(火) 19:30～
- ・会場 岩村振興事務所 大会議室
- ・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭
こども園代表 千藤まゆみ
地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人、
安藤良一、安藤仁志、川上貞夫、大島将官
中学校PTA代表 近藤祐司、松下雅昭、横光基
小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三
こども園保護者会代表 小木曾耕司、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔
恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好
総合計画審議会代表 西村貢
行財政改革審議会代表 柘植麻美
振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、安藤英幸(代理)
教育委員会 大畑雅幸
事務局 門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三
石田祐一、山田耕司、度會将仁
- ・欠席者 地域自治区代表
地域自治区会長会議代表 樹神和昭
中学校PTA代表 伊藤昌治、成瀬浩司
こども園保護者会代表 森井清、成瀬一

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 第6回グループ討議の結果について

事務局より資料に基づき説明

委員長 : ご意見は後ほどまとめて伺いますので、次の議題に入ります。

(2) 道路網による中心地の確認について

事務局より資料に基づき説明

(3) 山岡中学校、明智中学校までの通学時間、通学距離について

事務局より資料に基づき説明

(4) 新設校の授業時間について

事務局より資料に基づき説明

- 委員長 : (1) ~ (4) の中で確認したいことなどあれば挙手をお願いします。
- 委員 : 資料4の明智町阿妻から明智振興事務所までの時間や、家からバス停までの時間を示してほしい。資料3の通学時間とは若干違ってくるのではないか。
- 事務局 : 資料4では、家からバス停までの時間は考慮していない。第3回の資料4でシミュレーションの資料があるので参考にしてほしい。今回はスクールバスの想定必要台数で資料は作成してある。運営するにはルートとバスの台数の検討は今後必要になる。
- 委員長 : その他にどうでしょうか。
- 委員 : 統合の良さを協議するために負担をしなければいけないのは、通学の距離や時間である。ここを丁寧に協議しないといけない。バス停までの時間も通学時間に含めて考える。いくら良い学校が出来て、部活が選択できて通学時間のために部活をする時間がないのではいけない。通学時間や距離ほどの程度可能なのかを考えてほしい。
- 事務局 : 資料3に通学距離、時間が算出してある。地域によっては距離が短くなることはないが、バス停を近くに作るなどして時間が短くなるように今後、検討をしていかなければならない。第3回の資料2に居住地範囲面積が示してあるので参考に委員がどのように考えるか協議していただきたい。
- 委員 : 資料4を参考に、それぞれの地域で知恵を出し合って、短時間で通学出来る方法を考えていくと良い。
- 委員長 : いろいろな知恵を出していただいて絞りこんでいきたい。
- 委員 : バス停の設置位置や発着位置は、地元の意見を考慮するのが大事ではないかと思う。この資料には明知鉄道が入っていないので、鉄道のダイヤも検討をして利用する方向で検討していくと良い。
- 委員 : 資料4は、想定バス停であり、提示された資料を基に検討していけば良い。
- 委員 : 通学方法は総合的に考え、各地区の事情も考慮して最終的に決めていくことが良い。
- 委員 : 上矢作、串原地域の子どもにかかる負担は大きい。部活動は中学生の大きな目標であり、楽しみであるが資料の時間割を見るとどのくらい部活動ができるのかと思う。
- 委員 : 中学校の現状は、冬場の下校は4時30分のため部活は出来ないが、朝部活は生

き生きと活動をしている。技術や技能を高めたい生徒はジュニアクラブに参加して、夜間や土日に活動に参加している。ジュニアクラブの参加は保護者で送迎していただいている。

委員：地域代表なので、会議の内容を地域に戻って説明する義務がある。統合を望んでいない保護者、住民は不満をためている。昨年度のあり方検討委員会が提言書を出したことを住民は知らされていなかったのが実態だと思う。その反省を踏まえると、今やるべきことは、保護者や住民の思いを吸い上げて不安や心配事を解決する方策を考え出すことがこの会議の場ではないかと思う。それがない限り通学距離、場所の意見は出せない。意見を出すと地域の総意と判断され、重い決断になる。地域に戻るとなぜ決めてきたのだと言われる。場所が山岡と明智地域の2箇所になっているが、なぜこの2箇所になったか。

事務局：第6回の会議でグループ討議した結果である。決まったわけではなく、既設校を利用できるのはどの学校かを議論した。その結果に基づいて資料を出している。

委員：その他の中学校が出てくるのか。

事務局：想定校として2校が出たのでそれ以外はない。

委員：このメンバーだけでそれを決めるのはおかしい。

事務局：統合が実現可能かどうかを検討する上で通学や距離、子ども達の負担などをどうカバーするのか考えていくものである。統合校を山岡中学校か明智中学校のどちらかに決めたのでない。

委員：必然的に的を絞っていく段階で山岡、明智、それ以外はなぜないのか。

事務局：現実的に考えた時にこの2校が望ましいということである。

委員：誰がそれを言っているのか。

事務局：第3回にシミュレーションで、場所を絞って検討するという事で議論をしている。それを5校にすると元に戻ってしまう。

委員長：この再編委員会は公の会議で、諮問に対して答申をすることがこの委員会の役目である。設置要綱に基づいて行っていくが、まだいろいろなことを聞きたいということであれば、事務局は説明に行くのでそういう場で意見を言ってほしい。

委員：この会議に地域の意見があがっていればいいが、本当にあがっているのか。

委員長：委員が代表者として、会議のことを地域で話をしていかなければいけない。

委員：話をしているが、この会議では不安なことなどを議論させてもらえない。そういう場所はどこで設けてもらえるのか。

委員長：事務局に要望すれば出向いてもらえる。そこで不安なことや疑問に思っていることを出してほしい。

- 委員：参考資料に串原から出ている質問・意見について、教育委員会が回答している資料があるが、串原では話しているのではないかと。
- 委員：保護者に配って確認をしているが、この回答に保護者が納得するかわからない。
- 委員：それはまだ先のことではないか。串原では質問が細かく出ているので保護者は承知され、委員に代表として前向きな話をしてほしいということではないのか。
- 委員：串原PTAは不安や心配があるので、事務局に来て回答の説明をしてもらった。参考資料は、どこの地域でも心配される内容があると思うので、これを読んで理解され、まだわからないことがあれば文書で教育委員会に出して、説明してもらえばいいと思う。これを参考に心配事を解決して、将来のことを考えていきたいと思う。
- 委員：参考資料④の回答で保護者に多数ご賛同を得られているとあるが、どのくらい賛同しているのか。
- 教育長：賛同者を人数で承知はしていないが、各地域でのPTA役員等の懇談や説明会で情報収集をした感触である。
- 委員長：それぞれの所属団体ではどのような状況か。
- 委員：賛否両論あると思う。必ずしも賛成かというところでもない。結局統合してしまうという方が多数だと思う。捉え方しただと思う。
- 委員：地域協議会では1校に統合ということで意見はまとまっている。岩邑中学校は単独で維持できるので統合はどうかという意見もある。人数も多いのに、こちらから動いていくのかという意見もある。しかし恵南全体を考えるとやむを得ないということで統合に賛成となっている。
- 委員：全体に行き渡っているかというところではない。会議の内容は学校再編日より地域、PTAに配布されているので大まかには伝わっている。いろいろ言っても先行き既存を維持できるのかという意見もある。
- 委員：声を出さなかったら賛成か。出したら反対かということではなく、多い少ないはわからないし浸透していない。説明会で意見を述べたから、賛成とするのはやめてほしい。
- 委員：保護者の意見をどれだけ吸い上げられているかと反省している。賛成もあるし反対もあるが、やむを得ないという方が多い。学校再編日よりQ&Aを載せて保護者に考えるきっかけをつくってほしい。
- 委員：統合はこども園の園児、親に一番かかわってくるので積極的に話しをしている。大賛成も大反対もない。将来のことを考えると、集団で生活ができなければいけないのでどちらかというところ賛成寄りである。個人としても大きな集団で経験す

ること賛成である。保護者全員が賛成しているとは言えない状態である。

委員：出来るだけ早く結論を出したい賛成派である。恵南の中学校の統合問題は、恵南地区だけではなく、恵那市全体の問題だと捉えてほしい。恵南で1つになりたいという気持ちである。

委員：全体に半信半疑である。これで決定ではない。これからだと思う。

委員：個人で責任を取りたくない。小学校、中学校、こども園保護者で理解をしてもらうために説明会を開催する。行政主体で進めているので言ってもしょうがないところもある。統合する方向で進んでいくのだろうと思っている。

委員：通学時間が長いのはデメリットではない。通学時間を活かして勉強すればデメリットではないと思う。

委員：こども園の保護者は先の事で、リアクション、実感がないのが現状である。

委員：保護者の執行部に説明ができていない。こども園の保護者が賛成か反対なのか状況はわからない。子どもの世話で説明会に行けない。なる様にしかならない。

委員：賛成、反対を聞いてはいない。統合はしかたがないというのが大半である。保護者に興味を持ってもらうように話はしているが、学校再編よりも興味を持たれる内容にしてほしい。

委員：自治連では、直接かかわる保護者の意見を重要視するという事で話をしている。自治連では賛成、反対は出ていない。

委員：串原で今年生まれた子どもは1人、その子どもが中学生になったとき、全校で5、6人という時代がくる。委員の皆さんも10年先を考えてこの問題を前向きに考えてほしい。

委員：いろいろな議論をする際には原点を大切にすることが必要である。中学生の時期の学力、教育水準を上げることが原点であり、複数の先生に習うためにはクラス数が必要である。クラス数を確保するためには生徒数が必要である。身につけさせたい学力のレベルや今後の可能性は、どれだけの教員を確保できる体制をとるのか。そこから考えると、事務局が示している12クラスはないと専門の先生を複数配置できない。そこを原点にしないといけない。ふるさと学習は学校運営協議会などで地域も含めて議論をして質を高めていく。教員が行う教育のレベルをいかに高める体制をとるのか。地域も含めて協力できる教育の質が原点ということをお忘れしないでほしい。

委員：保護者の不安を解消するには新設、新築で新しい学校に期待する気持ちで、不安感を取り除いてほしい。恵那市の将来を背負っていく子どもを育てるという気持ちである。地元住民にいろいろ言われることも覚悟している。地域で説明をする

のに岩邑中学校も参考資料としてシミュレーションをしてほしい。誤解を招くかもしれないが参考資料にしたいのでお願いをする。

委員：串原の質問に対して回答されたが、ほかの地域は聞いてもらえないのか。どうして串原だけなのか。

委員：なかなか口で言っても通らないこともあるので、まとめて出したらどうかと提案をした。ほかの地域も質問があれば回答していただけたらと思う。

教育長：中学校の統合の原点は、この地域で育っていく子どもの中学校の3年間の教育環境をないがしろにしたら、学校統合する意味がない。昨年度のあり方検討委員会では、場所が想定されていないのに意見が言えないという意見が多かった。大凡の意見で提言を出して、それを尊重し教育委員会の足場とした。この委員会で学校統合の場所を決めたことで委員さんが苦しい思いをされることはない。どこの場所であれば歩み寄れるのかベターなところを想定して足場とする。この先の状況や子どものことを考える上で統合を進めている。賛成、反対の意味合いが違う。いかに子どもたちの教育を確保するかだと思う。統合にはまだまだ課題はあるので、次年度以降に次の委員会を組織して解決していく。

委員長：今月は2回の開催になるのでご協力をお願いしたい。

副委員長：委員の皆さんが不安に思っていることがわかった。原点をしっかりと認識して議論をお願いしたい。

21：40 終了